

平成 27 年度 第 2 回学校協議会

平成 27 年度府立野崎高等学校第 2 回学校協議会議事録

日時：平成 27 年 11 月 27 日(金)

授業見学：14:20～15:10

協議会：15:20～17:00

於：本校会議室

司会：榊 教頭

記録：大西香奈子

児玉 陽

土田由起子

【次第】

- 1、校長挨拶
 - 2、事務局より
 - 3、協議・意見交換
 - 4、会長より
 - 5、事務局より
-

1. 校長挨拶

- ・ 11 月 21 日にチャレンジ野崎（体験入学会）実施報告。
- ・ 野崎高校来年度新入生の募集人数 240 名決定報告。
- ・ 平成 28 年度選抜方法の変更について。
- ・ 12 月 11 日、野崎高校 40 周年記念式典の実施について。

2. 事務局より

ア、榊教頭より資料について確認

イ、校長より本年度学校経営計画、取り組みの進捗状況について報告

- ・ 学校経営推進費を 3 年越しに獲得し、各教室の右端にプロジェクターが設置された。
- ・ 1 階職員室前に「ミニサプリ」という自習コーナーを設置し盛況。
- ・ 進路指導室横に「オープンラボ」も設置し、それぞれのレベルの生徒の学力アップを図る事業と位置付けられている。
- ・ 教員の研修は極めて重要と考えており、教員の学びは生徒に対する責任でもあるので力を入れている。

- 育成支援研修：ミドルリーダー育成を目的にした研修。5～10年目経験の先生中心に17名が参加し、学校の課題を取り上げてワークを実施。
- リーダー研修：今後本校及び大阪府の教育を担ってくれる先生が参加。
- 教育センターから英語科のモデル事業の依頼があり、「一部の先生への指導だけではなく、英語科全体の指導も」という条件で引き受けた。指導主事が来校し研修。
- 人権や保健に関する研修なども、教員の提案で実施。
- 国のマネジメントに関する研修があり、3週間教頭が府代表で参加。
- 国が実施している若手教員対象のアメリカ研修(3週間)に、本校の英語科の教諭が選出された。府内で3名が参加。本校のブログにリアルタイムで報告。

このようなことが、ひいては本校の成長となり、学校力の底上げにつながるものと思っている。

- ・停学数が減り、遅刻数昨年よりが少し増加。
 - ・進路では、大学入試について、指定校ではなく最後まで挑戦しようとする生徒が増加。
- 第3回の学校協議会では、これまでの成果の検証と来年度の課題について協議し、残された課題にも取り組んでいく。

ウ、前田首席より学校経営推進費の活用計画について報告

『生徒全員 Jump up!』作戦 → 全教室にプロジェクター設置、進路室横に学習スペースを設置、1階職員室横にミニ勉強スペース設置。

- ・授業改善「わかる」「できる」

ICTを使って授業すると生徒の顔が上がる(『フェイスアップ』)。

また、「いつでも、どこでも、だれでも」学習しやすい環境をと考え、進路指導室及び学年職員室の隣に学習スペースを設置し、自習・講習・補習に活用。

Jump Up PTを中心に推進

①外部学力テスト②授業アンケート③学校教育自己診断④進路決定率で成果測定

- ・進路状況

① 就職

求人の数は増えているが、1次試験合格率はほぼ例年通りの結果であった。卒業式後も就職を応援する。

② 進学…指定校推薦やAO入試はほぼ終了

公募制推薦入試や一般入試でチャレンジしたい、という生徒もいる。一人ひとりに合わせて学力をつけさせなければならない。

生徒の状況や取り組み方が変わってきているように感じる。1・2年生にも自信を持ってチャレンジさせたい。1年生から、大学や企業の方と接する機会を多く持つように取り組んでいる。昨日は、中小企業の社長40名ほどが来校しグループ討論ができる行事を実施した。

宮崎生徒指導部長より生徒指導について

重点目標として、服装指導、規範意識の向上、生徒会活動の充実を挙げている。

- ・服装については、新制服が3学年そろったので、制服の指導を強化して行っている。
- ・指導案件に関しては、校外の巡回強化により苦情は減ってきている。校内での生徒も落ち着いてきている。指導案件は昨年度に比べて半減している。

携帯（スマホ）の利用について KDDI より講師を派遣し講演実施。昨年より携帯利用に関する指導は減っている。

- ・生徒会活動の充実については、体育大会・文化祭で生徒の活躍が年々レベルアップしている。今後も生徒がリーダーシップを活躍できるように指導していきたい。
- ・生徒の8割は自転車通学であるため、正門前の道路横断の危険性が高い。昨年度は、危険場所での声掛けや、HR で生徒の通学風景を写真で見せる等の交通マナーの指導を行った。

今年度は自転車交通安全教室（スケアードストレイト）を実施予定。スタントマンによる実際の事故に近い形で体験を学び、普段の自転車のマナーを考える機会になると考えている。実施後は、地域と協力して、交通安全週間などを考えている。

エ、水元教頭より授業改善の取り組みについて

- ・授業アンケート：今年で5回目のアンケート実施

アンケート結果を各教諭に伝え、自分の授業を分析し改善シートを作成する。教科は教科毎に改善シートを作成する。

- ・全体考察：野崎高校教員全体に職員会議で報告した
パワーポイントの見せ方や構成力が向上しており、効果的な使い方ができていると感じられるが、生徒はプロジェクターや ICT を使った授業慣れてきたのか、今年度は満足感や達成感の数値が若干落ちてきた。今後もしっかりと分析していきたい。
- ・習熟度別授業：数学・英語などは高い評価がみられる
2年生の英語は、2クラスを3展開して習熟度別学習を行っている。数学でも少人数展開の授業をやっていききたいという声も上がっている。
- ・ビジネスの授業も高い評価がみられる
- ・その他：38期（3年）、39期（2年）の違いがある

38期…25年度1年生の1回目から2回目、26年度2年生の1回目から2回目の数値が伸びている。

39期…26年度1年生の1回目から2回目の数値が伸びている。

授業が生徒たちのニーズに合う、わかる授業に変わってきているのが授業アンケートからみてわかるのではないだろうか。

オ、前田首席より広報活動について

- ・体験入学会「チャレンジ野崎」に 160 名の参加があり、ここ数年では一番多かった。13 講座を開講した。
- 中学生のアンケートによると、野崎高校に興味があったからという理由が一番多かった。学校紹介や講座もわかりやすかったとのことで、特に実技教科の反応がよかった。
- ・今後も中学校訪問や出張授業、学校説明を行い中高連携充実に努める。
- ・里山ボランティアや各地域協議会への参加により、地域連携に取り組んでいる。

和田教務部長より選抜について

- ・来年度選抜より後期選抜に一本化され、選抜方法も変更される。

○概要

- ・英語・数学・国語で、「基本・標準・発展」の 3 種類の問題から学校が選択する。本校は、英・数が「基礎」、国語が「標準」の問題を選択。
- ・調査書と学力検査を 1 : 1 でみる。よって調査書は 450 満点。
- ・調査書の絶対評価を実施。(来年度は中学 3 年次の評価のみ)
- ・大きく異なる特徴としては、アドミッションポリシーによる選抜があること。アドミッションポリシーは事前に各校で決めてあり、公表済みである。これに非常にかなう生徒をとる、ということ。ボーダーゾーンの中にある生徒を、事前に書いてきた自己申告書を読んで選抜する。

以上が大きな変更点。

3.協議・意見交換

委員： 遅刻に関しての状況を詳しく教えてほしい。どの時間帯が多いとか、遅刻の理由について。

教諭： 全校で 1 日に 100 名を超えることがある。昨年度は 20%の削減になり良い流れであったが、今年度はそれに比べると多くなってきた。朝ほんの少し早く登校すれば、という生徒が 1 学期より増えたように感じる。月間 4 回超えの遅刻者は月末の遅刻指導に呼んでいる。今年度も指導にかからないようにという意識はあり、早朝登校指導しているが、その指導が終われば遅刻する生徒が増えている。遅刻は 2 年前と比べて減ったが、昨年と比べると増えている。理由は寝坊が多い。

委員： 中学校は携帯やスマートフォンは禁止。SNS にかかわる事例で指導しなければならないこともあるが、高校での問題はあるのか？

教諭： 北河内の高校の生徒指導協議会では、府立学校で完全に持ってきてはいけないと

いう学校は 10 数校中 1 校のみ。校内使用不可は 3 校。私立は完全に不可で、解約指導までするところもある。野崎高校では、トラブルもあるため、SNS を使うと不特定多数の人が見ていること、1 度出てしまった画像などは消えることはないというデジタルタトゥーの指導を専門家からも行っている。普段の情報の授業の中でも SNS の使い方などの指導をしている。

会長： 学校ではいじめにつながることもあるので、気を付けなければならない。大学ではスマホを使って授業をすることもある。使えるのであれば有効に使うことも大事だ。SNS の投稿については大人にも問題がある。大人も含めて考えていかなければならない。

委員： ICT の稼働率は？

首席： 3 割程度か。

委員： どうしてもみなさん最初は飛びつくが、教室が暗くなることで寝てしまう生徒も出てくるし、同じような授業形態だと飽きてくる。あくまでツールとして、今後どう改善していくのかが必要ではないか。

オープンラボやミニアプリは面白いと感じた。気軽にできるし、感心した。

PT はよく活動していて、いい発信の仕方をしている。わかりやすく、いい形だと思う。今大学では入試から何から変えてきている。暗記ものではなく、考えさせる問題に変更してきている。これから数年後には、簡単な記述式の問題も出てくる。

アドミッションポリシーや TOEFL〇〇点以上で卒業などディプロマポリシーを、客観的な資料を用いて書きなさい、などと指示が来ている。何年かすると高校にも降りてくると予想される。うまく利用してください。

会長： 教育方法論で、パワーポイントの授業について大学で授業をしている。利点は何か（元の画面に戻せる）欠点は何か（誤字があれば修正できない）を学生に挙げさせている。

新しい機器ができて授業改善したような気持ちになっているようではいけない。特殊な授業で映像がほしいという先生は使っているが、大学では利用が減ってきているところもある。十分な機器を、どのように使っていくかが問題である。

会長： 授業見学していて、女子生徒の化粧が濃いのが気になったが…。

教諭： 進路行事や進学、就職に関係する場合に指導して考えさせている。

会長： 商品化されている JK ビジネスが、今の社会の中で問題になってきている。そういう風潮の中で、化粧が濃くなっているのは気になること。

委員： ICT 授業についてはどうなのか？ICT に興味のある先生や若い先生は工夫していくと思うが、苦手な先生もいると思う。使っている先生と使っていない先生との差が今後出てくるのかが気になる。

4. 会長より

今後最新式の ICT をどのように効果的に使うかが課題である。写真や図はわかりやすいが、言語による概念の形成がなくなってくる。それが今後の問題である。

大学は言葉の概念を学ぶ場所。高校の時期に言語の学びがなく下ごしらえをしておかないと心配。

遅刻の問題など、いろんな工夫をしておられて、先生方の努力の結果も見られるところもある。

今後大学の教育も変わってくる。そうすると、高校でも文章力を求められる指導に変わってくるので視野に入れて取り組むことが大事。

どんな形の授業も、まずは人間関係ありきと私は考えている。生徒と教師との人間関係、信頼関係が向上につながっていけるよう、対人関係を築いていくことがもっとも大切だと考える。

5. 事務局より

第3回は2月26日（金） 14時～